

## 放射線機器の更新について

【検査・放射線部】放射線技師長 下村 広

MRI (Magnetic Resonance Imaging) 検査や CT (Computed Tomography) 検査は体の断面画像を作って病気を診断する検査です。淡路医療センターではこのような大型装置の更新を定期的に行っています。

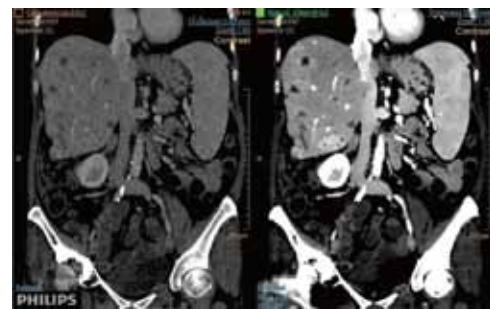
当センターには、MRI 装置が 2 台あり、そのうちの 1 台を約 15 年ぶりに更新し、H30 年 4 月から稼働しています。フィリップス社製で“Ingenua-1.5T(インジュニア-1.5テスラ)”という装置です。特徴としてデジタル化を進化させ、雑音を極力排除して多くの情報を取得できるようになり、良質の画像を得ることができます。長い筒のような装置の中に入っていきときの開口径が大きく、患者様のストレス軽減に役立っています。また、MRI 室内への金属(磁性体)の持ち込みは大変危険なので、MRI 検査用に金属のない車イスやストレッチャーを用意しています。



また、2 台ある CT 装置のうち 1 台を今年度更新することとなり、H31 年 4 月から稼働予定です。“IQon(アイコン) Elite Spectral CT”といい、同様にフィリップス社製の装置です。

CT 検査は人体を透過した X 線を検出器という受け手をとおしてデータを集めて、人体の断面画像を取得する検査ですが、この検出器は通常 1 層なのですが、新装置では 2 層になっており、2 種類の X 線エネルギーを検出することにより、これまでとは異なった画像を得ることができ、組織や病変をより評価・診断できるようになります。検査スピードだけではなく、いろいろな情報を含んだ画像を再構成して、臨床的価値を生み出すことを重視しています。

このような最新の装置を駆使し、県民や島民のみなさまに最適な医療を提供できますよう、努力を重ねて参りたいと思います。



新装置による造影効果を強調した画像(左が従来の画像)

兵庫県立淡路医療センター

# AMC NEWS



〒656-0021  
兵庫県洲本市塩屋1丁目1-137  
☎: 0799-22-1200(代表)  
http://www.awajimc.jp

## くにうみ県病だより

VOL.39

平成31年  
1月発行

### Contents

- ・医療者の働き方について
- ・心不全外来の開設について
- ・Festa2018
- ・放射線機器の更新について
- ・「骨粗鬆症市民公開講座」のお知らせ
- ・外来診療担当表

## 働き方改革で誰もが働きやすい環境づくりを!

兵庫県立淡路医療センター 院長 小山 隆司

医師の働き方改革は、国を中心にいろいろな場で議論されている、今ホットな話題です。そもそも働き方改革は、政府が掲げる「一億総活躍社会」の実現に向けた取り組みで、生産年齢人口の減少による労働力不足をいかにして補うかがその背景にあり、長時間労働の是正が一つの柱です。

一方、我々が行う医療に目を向けると、医療の高度化・複雑化に加えて、複数の病気を抱えた高齢者の増加や、医療を受ける側の意識の変化などが相まって、医師の仕事量は日増しに増えているのが実情です。

我々も、時流に乗って働き方をしっかり考えるべき時です。もちろん働きやすい環境は、医師だけでなく、病院で働く全ての者が望むものです。行えることから地道に。手始めとして、かかりつけ医の先生との役割分担を推進した外来業務の縮小の取組を行います。

最近、高齢者独居が増えています。病状説明などを聞いて頂く親族の方が島外在住である事も多く、説明が夜間や休日となることもしばしばです。何とか平日の時間内に行うことが出来ればと考えておりますので、ご理解ご協力をお願いします。

とは言え、働き方改革の結果、医療の安全・安心がないがしろになっては本末転倒です。そのことはしっかりと肝に銘じておきたいと思っています。





## 心不全外来の開設について

循環器内科 医長 藤本 恒



皆さん、「心不全パンデミック」という言葉をご存じでしょうか。日本は今後高齢化の一途をたどり、それに伴い心不全の患者が爆発的に増えると予想されており、この現象は「心不全パンデミック」と呼ばれています。しかし、この「心不全パンデミック」は、世間に先んじて淡路島内ですでに起こっており、この10年間で心不全入院患者は2倍に増えています。心不全は、発症後の5年生存率は約50%と、実は一般的ながんの予後よりも悪い病気です。この心不全が淡路島で蔓延していることは、非常によくはない傾向です。

ここ数年の傾向では、心不全入院患者の40%は、それまでまったく心臓の異常を指摘されたことがありませんでした。しかし、このまったく心臓の異常を指摘されなかったことがない40%の患者のうち8割は、入院時の心エコーで明らかな心臓の異常を呈しており、早期発見・治療介入をすれば心不全入院を防げた可能性があります。あるいは、心不全によるダメージを最小限に減らせた可能性があります。

そこで当院では、心不全高リスク患者を対象に、午後半日かけて問診、心エコー、心電図、レントゲン、採血を行い心臓の精査を行い、心臓の異常をきたした患者の早期発見・早期治療介入を行い、新規の心不全入院患者を減らすための心不全専門外来を開始いたしました。

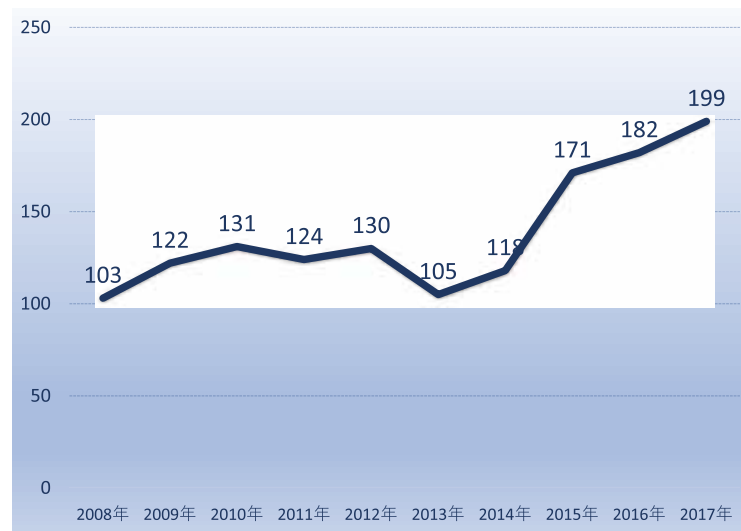
心不全高リスクの患者とは、高血圧・糖尿病・動脈硬化症・喫煙・メタボリックシンドローム・心疾患の家族歴などがあげられます。その他、心雑音のある方、高齢者（高齢だけでもリスクです）、心臓が気になる方、どんな方でも結構ですので開業医・近隣医療機関を通しまして、心不全専門外来を予約ください。外来は毎日行っています。結果は、当日もしくは紹介いただいた開業医を通して行いますので、よほど大きな検査異常を認めなければ後日来院していただく必要はありません。

淡路島ではすでに「心不全パンデミック」が始まっています。新たな心不全入院患者を減らすには、第1に市民の皆様が心不全を知ること、第2に開業医・近隣医療機関の先生方と我々の密な連携が不可欠と考えています。

そのうえで、ぜひ心不全専門外来を上手に活用し、心不全に苦しむ患者を減らしたいと考えています。

ご協力よろしくお願いいたします。

### 心不全入院患者数推移



※ パンデミックとは？ 感染症が爆発的に流行する様を表す言葉

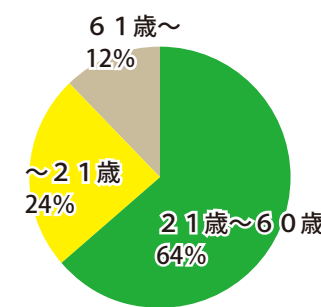
## 第4回 フェスタ 2018 のぞいてみよう医療の世界

11月25日（日）、地域に親しまれる病院を目指すとともに、幼少期の医療業務体験等を通じて、職業としての病院勤務の魅力を発信するため、第4回淡路医療センターフェスタを開催しました。今回はドクターカーの乗車体験やエコバッグ作り、医療相談コーナーの設置など新たな企画のほか、昨年に引き続き、島内の8病院に参画いただきスタンプラリーを開催しました。開催時間を2時間から3時間に延長したこともあり、前回（約500人）を上回る約600人の来場者がありました。

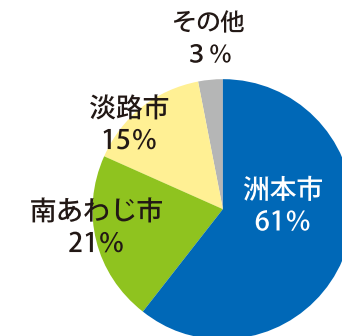
下表は、当日、回答いただいたアンケート結果をまとめたものです。「とても良かった」、「良かった」というご意見を多くいただきました。今後も地域に親しまれる病院を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。



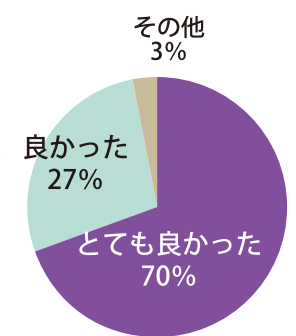
年代別



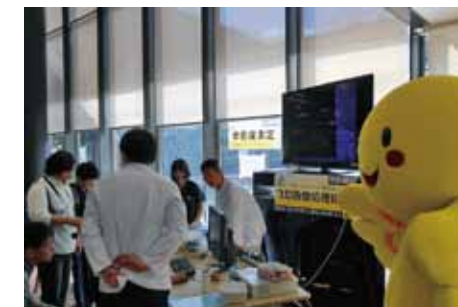
どこから来られましたか



フェスタはどうでしたか



ドクターカー乗車体験（救急科）



画像処理体験（放射線部）



医療機器清拭体験（臨床工学室）



島内病院紹介スタンプラリー（地域医療連携室）



医療用ウィッグ体験・相談コーナー（がん相談支援センター）



薬を量ってみよう（薬剤部）